



園芸

Point

## 高品質なメロンを出荷するため 作業前に注意点を確認しておきましょう!



男鹿地区営農センター 佐藤 圭太

### 定植準備

元肥の散布は、定植2週間前に行ってください。作畦マルチ作業については、ハウスでは十分にかん水後、トンネル栽培は降雨後の土壌水分が十分にある状態で行います。昨年度に「エン斑点ウイルス病」が見られた圃場は、「ハイフミンハイブリッドG」や「メロンスイカダルマ」を10a当たり15～20袋程度畝施用することによって抑制効果が高まります。

### ハウス・トンネル内温度管理

雄花の開花交配期や玉の肥大期を除いて、最低気温が12℃を下回らなくなったら昼夜とも開放管理ができます。しかし、開花前2～3日から着果後14日ほどは完全授精や肥大促進のため、いつもより朝1時間遅く開放し、夕方は1時間早くハウスやトンネルの裾を開閉して、昼夜とも最低気温15℃以上を保つように心掛けてください。また、最高気温は全期間通して30℃以下を目標としてください。

### 整枝作業等

「秋田美人(BG-27)」はかなり樹勢がよくないと1株から4果の収穫が厳しい品種です。遊びづるが伸びてこない状態でしたら、3果付けで対応しましょう。また、「秋田美人(BG-27)」、「LG-15」の遊びづるは先端1本としてください。他の品種は樹勢の強弱に応じて1～2本としましょう。

### かん水

樹が萎れない程度のかん水が重要です。特に黒土地帯のトンネルについては、着果後14日前後は果実の縦の長さが決まる大切な時期のため、1株当たり3ℓ程度のかん水に努めてください。

### 収穫

着果枝葉の苦土欠症状を確認したら糖度測定を実施し、15度以上で果実の熟度が進行していることを確かめて、大玉果から収穫しましょう。1ケースまたは1個の品質不良果がメロンの評価に繋がるので、注意しましょう。

### 病虫害防除

高温乾燥下では、ダニ類や「うどんこ病」などの発生が予想されるため、予防防除に努めましょう。

#### 【予防剤】

薬剤名	対象病害虫	倍率	使用量	使用時期	使用回数
ダコニール1000	うどんこ病 べと病 つる枯病	700倍 700～1,000倍 1,000倍	100～300ℓ/10a	収穫3日前	5回以内
モベントフロアブル	アブラムシ類 ハダニ類	2,000倍		収穫前日	3回以内

#### 【ダニ、アブラムシの発生が見られる場合】

薬剤名	対象病害虫	倍率	使用量	使用時期	使用回数
ダントツ顆粒水溶剤	アブラムシ類 ハモグリバエ類	2,000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日	3回以内
ピラニカEW	ハダニ類		150～300ℓ/10a	収穫3日前	1回

#### 【うどんこ病が見られる場合】

薬剤名	対象病害虫	倍率	使用量	使用時期	使用回数
ベルコート水和剤	うどんこ病 つる枯病	1,000倍	150～300ℓ/10a	収穫前日	5回以内